

看護 青い森




vol.104

発行日 2019.10.15

2019年度 会員数

会 員	8,653人
保 健 師	257人
助 産 師	314人
看 護 師	7,709人
准看護師	373人
(2019.10.4現在)	

■発行 /  公益社団法人 青森県看護協会 ■編集 / 広報出版委員会
■住所 / 青森市中央三丁目20番30号 県民福祉プラザ3階 TEL (017)723-2857 FAX (017)735-3836
URL <http://egao-park.net> E-mail ao.nurse@ceres.ocn.ne.jp



CONTENTS

02 青森県看護協会役員及び看護管理者等合同研修会

03 看護労働環境対策委員会から

04 高校生一日看護体験

05 広報出版委員 取材レポート
◆ナースセンター再就業支援研修「施設見学バスツアー」 in 八戸
◆災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的知識～

06 保健師・助産師職能委員会
看護師職能委員会 I・II

08 ◆医療的ケア児支援看護フォーラム
◆監査報告

09 支部だより
◆東青支部 ◆中弘南黒支部
◆三八支部 ◆西北五支部
◆下北支部 ◆上十三支部

12 各種お知らせ等

青森県看護協会役員及び看護管理者等合同研修会

今年度の重点事業「組織強化」の一環として7月20日(土)にリンクステーションホール青森で総勢105人の参加を得て開催することができました。研修会は役員や看護管理者等が本県の健康課題と保健医療福祉政策を知ること。さらに、当協会の重点施策を共有することにより、看護職のリーダーとしての役割を再認識するとともに、ネットワーク構築を推進し、当協会の組織強化を図り、もって、県民の健康な生活の実現に寄与するというねらいを設定しました。

前半は中南地域県民局地域健康福祉部長(弘前保健所長兼務)の山中朋子先生を迎え、本県の健康課題とそれに対する政策、そして看護に期待することについて講演を頂戴しました。山中先生は全国保健所長会の会長も務めており全国の保健医療等の現状を踏まえた本県の立ち位置、さらに第三者の目で捉えた看護への期待は看護の原点に立ち返り、日頃の看護活動を振り返る機会になりました。

後半の本会の重点施策説明は、4つの重点事項について各項目の現状(背景)と課題、それらを踏まえた今年度の取組について柗谷会長が行いました。会員に対する重点施策説明は、今年度は各支部集會に本部役員が参加して、また通常総会での議案として行いましたが、さらに分かりやすい丁寧な説明の場が必要との考えにより今回の企画に組み入れました。

プログラムの最後は「看護職がつながるためのネットワークづくり」をテーマに地域ごとに6～8人のグループワークを行いました。同じ地域内で行っている看看連携の取組が初めて分かった、地域の現状と今後の連携のあり方



圏域毎に分かれグループワークをしました

を意見交換でき、ネットワークづくりについて考えることができたなど目的達成につながる声をいただき、今後の実践に大いに期待したいと感じました。

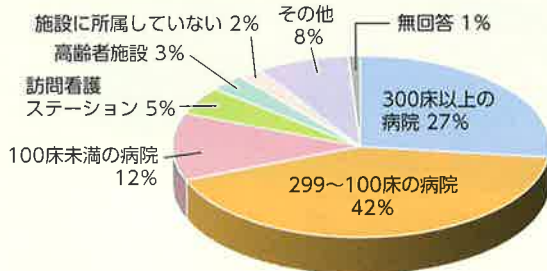
今回多くの看護管理者等の参加をいただき、一つずつ小さな取組を重ねていくことで大きなうねりにつながられるという力強さを実感することができました。まさしく組織強化の一翼を担う研修会であったのではないかと考えています。

本会の使命を果たすために大切な組織強化は会員拡大と並行して県民の命を守る取組を具体的な仕組みにしていくことだと思えます。ご多忙の中、日程調整して本研修会に参加して下さった皆様に深く感謝を申し上げます。

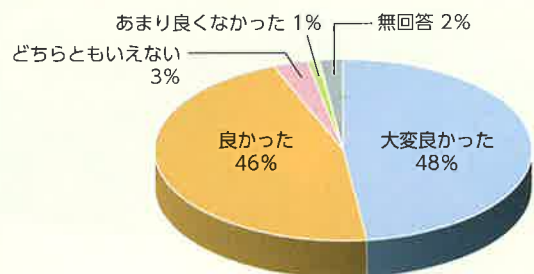
記：青森県看護協会 専務理事 大鰐恭子

アンケート結果

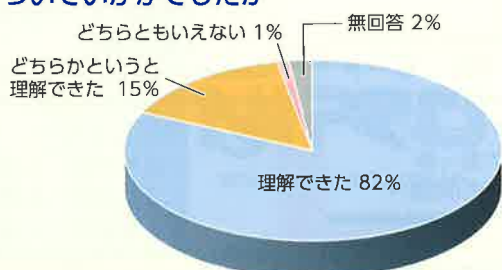
1. あなたの勤務施設について



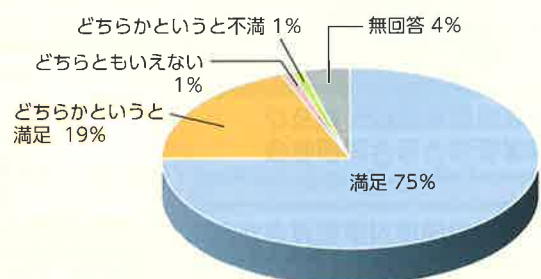
2. 講演についていかがでしたか



3. 青森県看護協会の重点施策説明についていかがでしたか



4. グループワークについて



看護労働環境対策委員会から

「ワークライフバランスなんて、
口ばかり」
「アンケートばかりで、
どこが改善されたのだろう」



これは、アンケートの自由記載に書かれていた内容です。これを読んだ時、胸のずっと奥の方がチクリと痛みました。

青森県看護協会看護労働環境対策委員会では、看護職が働きやすい労働環境を実現することを目標に活動しています。2017年度は病院を対象にした調査を、2018年度には看護職個人を対象にした調査を実施しました。

8月17日に明和会医療福祉センター 竹中君夫先生をお迎えして「時間外勤務に関するセミナー」が開催されました。予想を大きく超えた170名の方に参加していただき、関心が高いことがわかりました。看護職以外の事務関連の方や技術職の方の参加があったことも大きな特徴でした。

今回のセミナーでは、事前に質問を受け付けたところ、切実な多くの質問が届きました。先生からは、現場のリアルな質問に丁寧に答えいただき、改善へのヒントを沢山いただきました。研修後のアンケートでは、ほとんどが良い評価で、満足度の高い

特に個人を対象にした調査は全国に先駆けて取り組んだものです。すでに、報告書は各病院にお送りしましたが、ご覧いただけましたでしょうか？見ていないよ！という方、青森県看護協会のホームページ(<http://egao-park.net/>)に掲載しますので、是非ご覧ください。これらの2回の調査では、多くの方に調査にご協力いただき、本当にありがとうございました。これまで実施した調査は、青森県の病院で働く看護職の労働の実態を明らかにするために実施しました。実態を把握することで、今後の取り組むべき課題が見えます。

2019年度は、これらの調査結果を検討し「時間外勤務に関するセミナー」と「ハラスメントに関するセミナー」を計画しました。また、学会でも結果を発表します。決して、調査を実施することが目標ではありません。その結果から課題の解決に向けた活動に繋がります。皆さんが調査に協力してよかったと思えるように、活かしたいと思っています。

セミナーになったようです。「事務部門と一緒に受講したかった」「モヤモヤしていた疑問が解決してスッキリした」「講義の内容を参考に自施設で取り組みたい」等の意見がありました。

ワークライフバランスの実現とは、ご存知の様に、仕事の手を抜くことでもなければ、休みをたくさん取ることでもありません。限られた時間の中で、仕事も生活もベストを尽くせるように今の自分が目指すバランスで両立することです。

バランスは、その時々で変化します。自分がどんな仕事をしたいのか、将来のキャリアをどう考えるか、そして今の生活とどう両立するのか。今の自分の生活の仕方をしっかりイメージして、自分で実現を目指す必要があります。しかし、自分だけでは実現できないのです。実現を目指すための職場の意識改革や組織的な基盤の整備は必須です。私たちの委員会は、大きな力はないかもしれませんが、出来る事を精一杯取り組みたいと思っています。働きやすい青森県を目指して！



研修の様子

高校生一日看護体験



今年度は38施設へ63校563名の生徒さんが参加しました（昨年より113名増）

あおり協立病院

内山麻由美

暑い中、高校生一日看護体験が行われました。参加校は10校、計25名の参加となりました。全体集会では、先輩看護師や先輩看護学生から看護師になったきっかけや看護師の仕事についての挨拶をしてもらいました。また、感染管理認定看護師の講演を設け、「感染対策やってみよう！」と題して実際に人から人に感染する様子を目で見える形で体験しました。手洗いの



重要性が理解できたとの感想も聞かれました。

その後は、各病棟に移動し病棟スケジュールに合わせ患者様とコミュニケーションをとりながら、血圧測定・食事介助・足浴や手浴・車椅子体験、リハビリや検査室の見学など行いました。

最初は緊張していた学生さん達も患者様と触れ合う中で、徐々

に緊張が和らぎ笑顔で会話しながら体験していました。「患者様から『ありがとう』の言葉をいただき、嬉しかった!」「いい看護師さんになってくださいね。」と笑顔で声をかけられもっと看護師になりたいと思う気持ちが強くなった」など、看護師の仕事に興味を抱く意見が多く聞かれ、看護師を目指す動機づけにつながったようです。

医療法人済生堂増田病院

松橋由美子

8月1日、当院へ一日看護体験で看護師を志す4人の高校生が訪れました。白衣に着替え、総師長からのオリエンテーションの後、午前は病棟業務の体験です。血圧測定、車椅子やストレッチャーの操作や乗り心地を体感したり、経管栄養注入の見学、手足浴を行いました。昼食を配膳し、食事介助では「難しい」と大苦戦している様子でした。午後は病院内を見学し、各部署の説明を受けました。病院は色々な職種との連携で成り立っている事を、学ぶことが出来たと思います。

意見交換・感想発表の場では、「かっこいい」「やりがいのある仕事」「高いコミュニケーション能力が必要」等の声が上がリ、看護師になりたい気持ちが更に高まった印象を受けました。ERや緩和ケアに携わりたい等、具体的な目標も持っており、目を輝かせながら話を聞いている姿に、私達も改めて身の引き締まる思いでした。



広報出版委員 取材レポート

ナースセンター再就業支援研修「施設見学バスツアー」in 八戸

令和元年7月11日、再就業支援研修の施設見学バスツアーが開催されました。未就業の看護職を対象に再就業先選択の参考にできるようにと企画した研修です。今回は5名の方が参加しました。

1カ所目は、総合リハビリ美保野病院とその関連施設です。回復～維持期の方に対し、在宅復帰に向けた支援や在宅生活を有意義なものに出来るよう多職種が連携しケアに当たっていました。

2カ所目は、特別養護老人ホーム八戸素心苑です。入所者の命と暮らしを最期まで支援し、自分の家のように穏やかに暮らせる場所を目指していると施設長は話していました。職員一人ひとりが自分のもう1つの家族とし

て入所者を支えているという言葉が印象的でした。

最後の施設は、室岡整形外科記念病院です。救急対応や手術に備え、知識を深めるため勉強会や急変対応講習を実施していると説明がありました。

今回、急性期～終末期までさまざまな施設を見学し、和やかな雰囲気の中で各々質問したりメモをとったりしていました。バスツアー終了後、参加者からは「たくさんの職種が一丸となってケアに当たっているのを見て仕事をするっていいなと思いました」、「各施設の理念を聞いているいる考えさせられました」といった感想が聞かれました。お忙しい中時間をとって下さった各施設の担当者の方々、本当にありがとうございました。

記：広報出版委員 阿部舞子(三沢市立三沢病院)・関根裕美(三戸中央病院)



各施設からの説明時

インターネット配信研修【オンデマンド】： 災害支援ナースの第一歩 ～災害看護の基本的知識～

今年も災害支援ナースの育成研修が県民福祉プラザにて8月22、23日の二日間、神戸研修センターからのインターネット配信で行われ、助産師4名・看護師28名の参加がありました。

1日目は災害医療の基礎知識、災害時に求められる看護支援活動など2名の講師による研修でした。災害時の状況や支援活動を振り返り、災害の体系的な対応に対して改善を重ね今後の災害に備えている事、災害時に求められる看護は、課題解決思考をもとに看護の本質や倫理について理解し対応していく事であって、病院や施設での看護とは別のものではなく日々の看護の延長線上にあ

るものと話されていました。

2日目は災害時の心理変化とこころのケア、看護協会の災害時看護支援活動について(災害支援ナースの派遣の仕組みなど)の研修のあと、災害支援に派遣され活動した3名の方から実際の活動についてのお話もありました。災害支援についての知識や災害時の実際の支援状況・支援スタッフ間の繋がりについて理解出来ました。

“平時に出来ないことは、災害時も出来ない”という言葉が印象に残り、いつ起こるか分からない災害に対して、日頃から看護の原点を振り返りながら業務にあたりたいと感じました。

記：広報出版委員 竹内和子(弘前記念病院)



インターネット配信の様子



受講生の様子

保健師職能委員会コーナー

保健師職能委員 種市 雅 (六戸町役場)

保健師職能委員会では、「統括保健師に関する自治体向け検討会」および「病院看護管理者と行政保健師の連携促進学習会」を計画しています。

「統括保健師に関する自治体向け研修会」では、昨年度実施した統括保健師に関する調査を踏まえ、実際に統括保健師として活動している方に話題提供いただく他、マネジメント力に関する講演を予定しています。

統括保健師の配置促進は、保健師だけでなく、行政職の方々の理解を得ることも重要になります。今回の研修会は行政職の方々にもご参加いただきたいと考えていますので、みなさまには、行政職の方々にもぜひご参加していただくよう、お声がけをお願いできればと思います。

また、「病院看護管理者と行政保健師の連携促進学習会」は、地域包括ケアの推進に向けた布石とし



て実施するものです。保健師の役割は、まだ十分に理解されているとは言えないのではないかと感じています。この学習会は、看護管理者と行政保健師がまずはお互いの役割を理解し、顔の見える関係を築くために一堂に会する機会ですので、こちらも奮ってご参加いただければと思います。



助産師職能委員会コーナー

助産師職能委員 佐藤真奈美 (弘前大学医学部附属病院)

「2019年度院内助産等交流会」を開催して

令和元年7月6日(土)に、「院内助産・助産師外来の体制整備に向けた取り組み」をテーマとして2019年度院内助産等交流会が開催されました。交流会は、「院内助産・助産師外来ガイドライン2018」の普及と安全、安心な出産環境の体制整備を考える機会とすることを目的に開催され、分娩を取り扱う施設の産科管理者、助産師・看護師、事務職の30名の参加がありました。

講演会では、信州大学医学部附属病院の青柳陽子看護部長と牧田ゆかり産科病棟看護師長が信州大学医学部附属病院の助産師外来・院内助産の概要、「院内助産リーダー養成コース」の紹介、院内助産・助産師外来の意義



講師の青柳先生と牧田先生



報告者の古屋敦氏

について話され、八戸市立市民病院周産期センターの古屋敷智美看護師長から、「助産師外来・院内助産導入の経緯」についての情報提供がありました。講演後には、自施設の現状やどのように改善すれば院内助産導入ができるのか等についてグループワークを行い活発に意見交換され、情報共有することができました。

今回の交流会で院内助産や助産師外来導入に向けた各施設の現状や課題を整理することができ、妊産褥婦主体の助産ケアの必要性について再認識できました。院内助産・助産師外来を導入するには各施設で課題はあると思いますが、助産師職能委員会ではガイドラインを活用した院内助産・助産師外来のさらなる推進を行っていききたいと思います。



グループワークの様子

看護師職能委員会コーナー

外来看護職交流会を開催して

看護師職能委員会Ⅰ

看護師職能Ⅰ委員 三浦ひろみ (つがる西北五広域連合 つがる総合病院)

令和元年度看護師職能Ⅰ委員会では、第1回目の交流会として「在宅での生活を支援するための地域・外来・病棟の連携」をテーマに9月7日交流会を開催しました。

地域包括ケアシステム推進の中、病気で入院しても、退院後も患者一人ひとりが住み慣れた地域で継続して生活ができるよう外来看護師と病棟看護師・地域関係者との連携について考える機会としました。

始めに病院の連携室・外来・クリニックの3施設から実践報告をしてもらいました。業務の多忙さと人的要因などの悩みを抱えながらも、看護サマリー活用についての工夫、退院カンファレンスへの参加により多職種との情報共有、訪問時インスリン投与について個性を尊重した指導方法など地域との連携を強く意識した取り組みを行っていることが分かりました。

次に、「外来看護の果たす役割」「入院前支援」「継続看護のあり方」についてグループワークを行いました。今回55名の参加があり、9グループに分かれて話し合いました。病棟・外来・地域が必要としている情報の違いや入院前支援の必要性を理解していながらも十分できて



グループワークの様子

いないと感じていること等それぞれの立場から連携についての意見が活発に出されていました。

最後に八戸学院大学 地域連携研究センター教授 川野恵智子氏に講評をいただきました。在宅での生活を支援するためには、地域と外来の連携が大切であり、そのためには人員配置の見直し、教育方法の工夫、看護師の資質向上やマネジメント力をつけることが課題であることを提言されました。少子高齢化で一人暮らしの高齢者が多くなっている現状で様々な方法を取り入れて地域との連携のあり方、外来看護師の役割の重要性に気づくことができた交流会となりました。

★看護師職能委員会Ⅱ企画研修★

高齢者のフットケア研修会

看護師職能委員会Ⅱ

看護師職能Ⅱ委員 田中裕子 (中部クリニック)

令和元年8月22日十和田市立中央病院糖尿病看護認定看護師の成田圭子氏、同病院日本糖尿病療養指導士秋元円氏をお招きし、94名が受講しました。高齢者の特徴やフットケアを始めるための基礎知識とアセスメント、保湿剤の選び方を学び、午後は演習をしました。

二人ペアとなり足の観察方法、ニッパーの持ち方、爪の切り方、やすりのかけかた、ストレッチ、靴の選び方と多岐にわたり学習しました。受講者は実践しながら講師の指導を受けることができ、満足度の高い演習となりました。



演習の様子



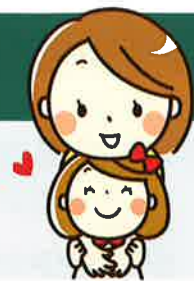
講師の成田先生と秋元先生

アンケート結果から「いつも深爪だったのがわかりました。」「患者さんの処置に少し自信ができました。」「爪のカドを切ってしまうので、今後は注意していこうと思います。」などの声が聞かれ今後の実践に結び付く貴重な研修となりました。

この研修を機に今後は各施設で足に興味を持ち、高齢者の歩行をアセスメントし自立支援や転倒予防に役立てていただきたいと思います。

◆主催：青森県健康福祉部こどもみらい課・青森県看護協会

医療的ケア児支援看護フォーラム



令和元年8月25日、医療的ケアを要する状態にある障害児や重症心身障害児等が病院から地域に戻っても切れ目のない支援を受け、安心して暮らしていけるよう支援者のネットワーク構築を目的に講演会及び意見交換会が開催されました。

青森県立中央病院総合周産期医療センター成育科部長 網塚貴介氏より、青森県の医療的ケアの現状・医療的ケア児をとりまく課題及び今後の方向性などについてお話がありました。

青森県内の医療的ケア児の総数は全国並みと考えられ、一時支援や短期入所などの支援は重症児・年少児ほど行き渡っていないこと、背景には支援リソース欠如に加え、情報欠如の要因が大きいという調査結果にも併せて触れ、家族負担が大きい現実と制度が追いついていない現状が話されました。最後に多職種で不足している事を明確にし、関係者が集合し話し合う構図を重ねていくことが必要であると締めくくりました。



講師の市川氏

◆講演 医療的ケア児支援者への支援

◆講師 岐阜県重症心身障害在宅支援センター「みらい」

コーディネーター／家族支援専門看護師 市川百香里氏

NICUでの自身の看護経験から始まり、在宅支援看護をはじめのきっかけや重症心身障害在宅支援センターでの活動について、家族の気持ち・言葉を交えながらお話いただきました。顔の見える関係づくりを重視し、直接自宅や施設等に出向き相談を受け支援する様子や、出前講習や研修会を実施し支援者の学びを支える活動から多くを学ぶことができました。

最後にある家族の手紙を紹介し、「介護とは思っていない。普通の子供と同じ子育てをしているだけ」という言葉に親の深い愛情とケア児・家族への支援がしっかり届いている証でもあると感動しました。



報告者の種市氏

◆話題提供 訪問看護ステーションやよい管理者 齋藤 孝子氏

六戸町保健師 種市 雅氏

青森県立中央病院 主任看護師 石岡 久子氏

話題提供は、それぞれの立場で事例を紹介しながら、医療的ケア児の現状と課題をお話いただきました。六戸町保健師種市雅氏は医療的ケア児の母のインタビュー内容を紹介し、前例がないため受け入れ困難であると保育施設を断られた事例などを通して、母の就労問題や就業先の理解不足・書類手続きの複雑さ・救急時の対応など課題を挙げ、多職種での情報共有としてICTを活用した情報管理の一元化や遠隔医療システムの利用、また人材育成と人材確保・支援者を支援する体制づくりなど所感として述べられました。

話題提供後、参加者121名で地域ごとに分かれ多職種それぞれの立場で意見交換が行われ終了しました。

記：広報出版委員 橋場絵理子(東通保健福祉センター 野花菖蒲の里) 奈良岡敦子(青森市立浪岡病院)

◎監査報告

「教育事業及び看護の普及啓発事業助成金」実地監査が実施されました。
右記に監査結果をご報告します。

- 期 日：令和元年7月12日(金)
- 対象年度：平成28年度～平成30年度
- 監 査 員：日本看護協会 管理部
- 結 果：適切に使用されていると認める



東青支部だより

青森県看護協会 東青支部です。

会員の皆様には、常日頃から支部活動にご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

東青支部では、今までの支部活動を踏まえ、青森県看護協会運営本部と連絡を密にし、協力をいただきながら、様々な改革に取り組んでいるところでございます。たとえば、

- ①今年度より連絡委員会を廃止したこと
- ②その代替案として役員数を増やしたこと
(11名から14名)
- ③その他例年開催してきた支部集会会場を変更したこと
- ④支部集会後に行われる研修会を事例検討会に変更したこと

など、昨年度までとは異なっている点が多くあります。過去の活動を踏まえ、改革すべきは改革していきたいと考えております。

今年度の活動といたしましては、看護の日のイベント開催、支部集会・事例検討会の開催、秋の研修会の開催、会員拡大活動としての学校訪問、関係機関との連携、来年度の活動計画の企画など実施していく予定です。



役員会の様子

今年度は新役員を含め、14名の体制で支部活動を運営していきます。私たち役員は、それぞれ日常の看護業務をこなしながら、支部活動を行っております。至らない点多々あると存じますが、一生懸命がんばります。

皆様からの率直なご意見が支部の活動を支えていくことに繋がります。今後も会員の皆様からの貴重なご意見を取り入れながら、活動してまいりますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

記：東青支部 支部長 山田明子(県立つくしが丘病院)

中弘南黒支部だより

中弘南黒支部の活動

2019年度の中弘南黒支部は役員7名、幹事15名の計22名で活動を開始しました。

すでに終了している今年度の事業もあり、あとは会員の教育活動として「看護研究計画書」の作成を学ぶ学習会を10月に開催予定です。昨今の臨床現場は研究活動に余裕が無い状況ではありますが、業務改善をすすめるために、あるいはケアの質向上を目指すためにも根拠となるデータを示し、看護ケアの可視化を図っていく必要があります。

現在役員会では来年度の事業計画について検討を行っております。来年度も支部集会後と秋の2回の研修会を予定しております。春は身体のリフレッシュをはかることを目的として、秋は地域内連携を深めるための内容を考えています。また、当支部は会員施設も多いのですが、施設間の交流等があまり図られてこなかったように感じています。是非会員



役員会の様子

間交流ができる場の設定も検討していきたいと考えています。その際は協力をお願いいたします。

地域包括ケアを担う看護職同士がそれぞれの働く場を超えて協力が必要となっています。

中弘南黒支部の会員数は約1,900人です。未加入の看護職がまだ多数おります。加入をすすめお互い看護職能として協力していけたらと思っています。

記：中弘南黒支部 支部長 寺島由美(健生病院)

再募集

中弘南黒支部では、10月27日(日)に「**2019年度看護研究学習会**」を開催いたします。定員にまだ空きがございますので、看護研究に取り組んでいる方、取り組む予定の方は是非、この機会に参加してみませんか？当日は看護研究計画書の立案・作成等について弘前大学大学院藤田あけみ教授にご講義いただきます。皆さん、是非一緒に学びましょう!!

問合せ：弘前大学大学院保健学研究科 早狩 TEL 0172-39-5924

三八支部だより

“八戸まちなか広場 マチニワmachiniwa”

三八支部からは、7月21日で1周年を迎えましたまちなかりビングマチニワを紹介致します。ガラスの屋根、シンボルオブジェ“水の樹”が特徴の多目的スペースです。向かいにはポータルミュージアムはっちがあります！もう皆さんはお越しになりましたでしょうか？

とにかく開放感があって、中心街に居ながらにして自然を感じられる心地よい場所です！

オープン時間は6:00～23:00。バスの待合いや、待ち合わせ、ちょっとした休憩など誰でも気軽に利用できます。その他、コーヒーフェス・バルフェス・マルシェ・音楽フェス・スポーツビューイングなど楽しさに溢れ、まさに人と人とが繋がれる出会いの場所です!!

なんと！こんな素敵な場所で今年の健康まつりが行われました。例年行っていた八戸市公会堂修復工事に伴うもので、看護協会三八支部のブースはマチニワの一角をお借りしました。今年は9月29日(日)10:00～16:00でこの日は中心街では歩行者天国で大賑わい！



健康まつりの様子

当支部は血圧測定や体脂肪測定など、市民の皆様の健康づくりのお手伝いをさせていただきました。同時に看護協会活動に興味を持っていただくようアピールしました。

まさに健康まつりというよりは健康フェス！がぴったりのマチニワでの活動でした。ちなみに来年もマチニワでの開催が予定されています。より、寄り添っていける楽しい活動にしていきたいと思っています。機会がありましたら皆さんもぜひマチニワに遊びにきてくださいね！

記：三八支部 支部長 神田久美子(岸原病院)

西北五支部の活動

★新役員の抱負

第一副支部長の笠原と申します。超高齢社会の到来を迎え、地域住民の健康と生活を支えるためのニーズも多様化し、格差が生じています。これらの課題解決には、在宅医療・介護の推進や医療・介護職の確保、質の高い医療提供など、地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題となっています。このような状況下で看護職は地域住民の健康と幸せを支える貴重な人材です。看護職が元気で、自分の仕事に対し自信と誇りを持ち続けられるよう私も尽力したいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

記：西北五支部 第一副支部長 笠原美香
(五所川原市地域包括支援センター)

開催日時：令和元年10月26日(土)13:30～15:30

開催場所：つがる市生涯学習交流センター「松の館」2F視聴覚室

テーマ 「レポートの書き方について」

講師：鄭 佳紅 教授(青森県立保健大学)

西北五支部だより

★支部活動の予定

下記の通り、第2回研修会を予定しています。パワフルな講師のもと、楽しく学ぶことができます。会員の皆様、実践をぜひ言葉にしてみましょう。多数のご参加お待ちしております。

記：西北五支部 支部長 角田つね(かなぎ病院)



下北支部だより

おいでよ!! 下北へ

今回は私達が活動している下北地域の紹介をさせていただきます。

青森市から国道4号線を野辺地方面へ、野辺地町からは国道279号線を車で走ること約2時間でむつ市に到着します。下北地域はむつ市と大間町・佐井村・風間浦村・東通村で構成されており、周りを陸奥湾、津軽海峡、太平洋に囲まれた自然豊かな所です。

下北地域はなにもない所ではありません。下北地域だからこそ魅力あるものがたくさんありますし、何より食べ物が最高においしいです！紙面の都合上すべてはご紹介できませんが、今回は食べ物を中心に、皆様が仕事の合間のリフレッシュとして『下北いいな、〇〇を食べに行ってみよう！』と欲していたようなものを紹介させていただきます。

まずは、海軍カレーに海軍コロッケ、大湊Sora空っ！こちらはすべて自衛隊とのコラボ商品です。また海産物が豊富です。言わずと知れた大間のマグロ、風間浦村のアンコウ、佐井村のウニ、むつ市川内を代表する陸奥湾産のホタテ、むつ市脇野沢の鱈、

鱈を使った鱈バーガー。海産物だけではございません。東通そば、東通ブルーベリー、大間牛、ペこもち、下北ワイン…。

残念ですが紙面が残り少なくなってまいりました。紹介させていただきましたがほんの一握りです。皆様、ぜひ仕事の疲れを癒しに、そして下北でナースとして働いてみませんか!!絶対に損は致しません!!

暦の上では秋を迎えましたが、下北支部役員一同一丸となり頑張っておりまして引き続きよろしくお願ひ致します。

記：下北支部 広報担当 高橋善弘
(むつリハビリテーション病院)



むつの新名所
(安渡館の敷地内にある展望台)

上十三支部だより

支部活動について

上十三支部は、今年度6名の新役員を迎え13名の役員で活動します。

役員会は、行政・病院・在宅と様々な立場の看護職が集まり意見交換をすることで、それぞれの役割を知り、理解し合える貴重な場となりますので、青森県看護協会重点事項の推進のため、支部の役割を認識し実践していきたいと思ひます。



上十三支部役員一同

また、役員や支部の活動を支部の中でもっともって可視化して看護協会の魅力を伝えられればと考えています。

上十三支部役員の中で、任期が切れても役員会に来たいと言っている方もいるくらい、とても和気藹々とした雰囲気です。

「私がやらなくて誰がやる!!」を合言葉に一致団結して頑張ります。

記：上十三支部 支部長 下山美智子
(十和田市立中央病院)



「2020年度 会員継続のお知らせ」について

日本看護協会から「2020年度 会員継続のお知らせ」が2019年11月上旬より順次発送されます。お手元に届きましたら記載内容をご確認のうえ、変更がある場合のみ「会員情報変更届」(右側半分)をご提出ください。

※2019年9月時点でのナースシブ登録先の勤務先または自宅住所へ郵送されます。既に退職された方へ届いた場合や、住所変更により郵便物が届かない場合は、お手数ですが青森県看護協会 総務課(017-723-2857)までご連絡ください。

氏名	性別



医療・看護安全委員会から No.27

青森県看護協会医療安全ネットワーク入会のお誘い

医療・看護安全委員会では、医療の安全管理推進に資する情報、問題について組織横断的に共有できる情報ネットワークシステムで医療安全管理者を支援し、有用な医療の安全管理情報を普及させることを目的として運用しています。今年度より1施設3名まで入会できるようになりました。ネットワークに入会することで「おひとりさま医療安全」から脱却し、悩みや情報を共有しましょう。

■医療安全ネットワークの申し込みの詳細は当協会ホームページより

- 入会申込書
- 名簿の取り扱いについての同意書
- 個人情報保護に関する誓約書



広報出版委員会より

「看護 青い森」の感想について下記のアドレスまで是非お寄せください。掲載される場合もありますので、お名前またはペンネームをお忘れなく。

E-mail : ao.nurse@ceres.ocn.ne.jp

「件名：看護 青い森 読者の声」でお願いします

編集後記

近頃、めっきり肌寒くなりましたが紅葉がきれいな季節になりました。県内各市町村で秋祭りが開催されますので、皆様も足を運んでリフレッシュしてみてくださいいかがでしょうか。

現場スタッフ様への排泄ケア研修を無料で実施します

排泄ケアに関するスキルアップ、当て方技術の向上など(オムツの正しい当て方からスキニングに関する内容まで)

ライブリー排泄ケアセミナー 全13コース

快適安心ケアと生活機能回復ケアをご支援

- ①排泄ケア概論 I
- ②「知る」から始まる排泄ケア
- ③おむつの選び方と正しい使い方
- ④高齢者のスキニング
- ⑤実践！スキニング～陰部洗浄のすすめ～
- ⑥排泄ケア概論 II
- ⑦排泄ケアコントロール
- ⑧排泄ケアにおける感染予防
- ⑨排泄ケア概論 III
- ⑩自立排泄スタートライン～テープからリハビリへ～
- ⑪成功に導く排泄環境のつくり方
- ⑫チームで支える排泄ケア
- ⑬自立排泄支援のコツ



連絡先
ユニ・チャーム株式会社
東北支店青森・盛岡エリア
マネージャー 横田 昌之
電話 090-2454-5248
masayuki-yokota@unicharm.com

新しい安心のカタチ
殺菌成分：次亜塩素酸水溶液
クロラス酸が汚れに負けない除菌力を発揮
SANKEI ケア・フォー ノロバリアプラス
強力除菌 消臭効果 低腐食性 低刺激性
EIKEN 株式会社 栄研
本社 青森県弘前市大字藤野1丁目4番地1
品質保証室 TEL 0172-31-2567
製造：本部三慶株式会社

信頼の技術を、信頼の医療機器・医薬品
医薬品へ。
NIPRO
www.nipro.co.jp

Nursing now

看護の力で健康な社会を!

日本看護協会は、「看護の力で健康な社会を！」をテーマに掲げ、Nursing Nowキャンペーンに取り組んでいます。